

平成26年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 旭 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成26年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成26年4月22日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 137人 国語B 137人

② 数学A 138人 数学B 138人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

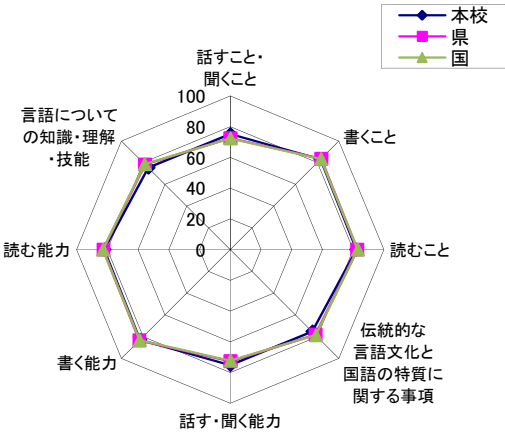
(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立旭中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

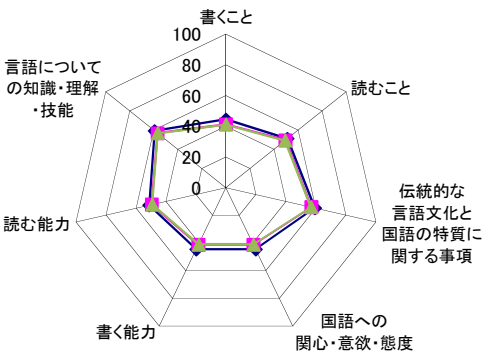
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	県	国
領域等	話すこと・聞くこと	75.2	72.5	72.3
	書くこと	83.0	83.7	83.4
	読むこと	82.0	82.6	82.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.4	78.4	78.7
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	75.2	72.6	72.3
	書く能力	83.0	83.7	83.4
	読む能力	82.0	82.6	82.9
	言語についての知識・理解・技能	75.4	78.4	78.7



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	県	国
領域等	話すこと・聞くこと			
	書くこと	44.5	41.3	41.0
	読むこと	51.2	49.6	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	59.3	57.0	56.8
観点	国語への関心・意欲・態度	44.5	41.3	41.0
	話す・聞く能力			
	書く能力	44.5	41.3	41.0
	読む能力	51.2	49.6	49.2
	言語についての知識・理解・技能	59.3	57.0	56.8



★国語に関する質問紙調査の状況

○良好なもの ●課題が見られるもの

○「国語の勉強は好きですか」という質問に対し、71.0%の肯定的回答があった。これは、全国平均より12.8%高く、興味関心を持って国語の学習に取り組んでいることがうかがえる。
○「読書は好きですか」という質問に対し、77.5%の肯定的回答があった。これは、全国平均より8.1%高く、読書活動に進んで取り組んでいることが分かる。
●「国語の授業で文章を読むときに、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか」という質問に対し、「当てはまる」と回答した生徒は24.6%であった。これは、県平均より1.0%低く、文章における段落の役割や構成等をとらえながら読もうとする意識が低い傾向にある。

★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

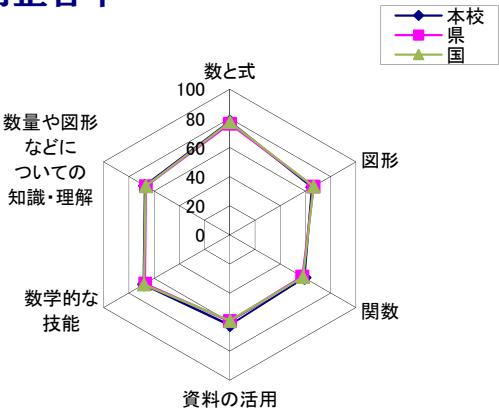
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○A 平均正答率は75.2%で、全国平均より2.9%、県平均より2.7%高い。 ○発言に対する意見の相違点を記述する問いの正答率が高い。 ●必要に応じて適切な質問を考える力に課題がある。	・目的に応じた話し方や質問の仕方について、体験的な活動を通して理解させる。
書くこと	●A 平均正答率は83.0%で、全国平均より0.4%、県平均より0.7%低い。 ○B 平均正答率は44.5%で、全国平均より3.5%、県平均より3.2%高い。 ○読みやすく分かりやすい文章に整える技能が高い。 ●心情を表す語彙力に課題がある。	・語彙を増やすために新しい言葉を学習した時にその言葉を使えるような学習活動をさせる。また、いろいろなジャンルの内容の文章を読むようにさせる。 ・表現力を向上させるために、良質な文学作品の表現を模倣することで自分の表現の幅を広げる学習活動を行う。
読むこと	●A 平均正答率は82.0%で、全国平均より0.9%、県平均より0.6%低い。 ○B 平均正答率は51.2%で、全国平均より2.0%、県平均より1.6%高い。 ○文章に表れているものの見方について自分の意見を持つことができる。 ●文章全体と部分の関係についての理解に課題がある。 ●文章を比較してそれぞれの要旨をとらえる技能に課題がある。	・文章の中心的な部分と付加的な部分を区別する方法について、接続表現等を手掛かりに理解できるよう指導する。 ・立場の異なる意見文を比較し、どのような部分に意見の相違が表れているかを考える学習活動を行う。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●A 平均正答率は75.4%で、全国平均より3.3%、県平均より3.0%低い。 ○B 平均正答率は59.3%で、全国平均より2.5%、県平均より2.3%高い。 ○表現技法の知識が身についている生徒が多い。 ●古典において、登場人物の思いを想像する力に課題がある。	・古典の文章に表れたものの見方や考え方を理解し、さらに現代との相違点や共通点を考えさせる活動を行う。 ・様々な種類の古典の文章を読み、古典に表れる多様なものの見方や考え方に触れる機会を持つ。

宇都宮市立旭中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

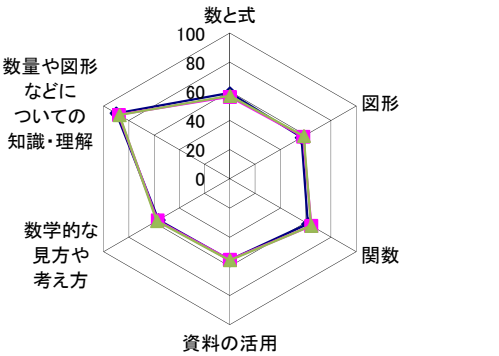
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	県	国
領域等	数と式	77.8	76.3	77.4
	図形	65.3	66.4	66.4
	関数	59.2	57.5	58.0
	資料の活用	62.0	59.5	59.1
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	68.3	67.3	68.2
	数量や図形などについての知識・理解	67.4	66.7	66.8



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	県	国
領域等	数と式	58.9	56.3	56.9
	図形	56.8	58.1	58.6
	関数	61.9	64.5	64.4
	資料の活用	55.8	55.5	55.9
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	56.6	57.3	57.9
	数学的な技能			
	数量や図形などについての知識・理解	89.9	88.0	87.5



★数学に関する質問紙調査の状況

○良好なもの ●課題が見られるもの

○数学の勉強が好きである、数学の勉強は大切であると回答した生徒の割合は、全国・県平均より高い。
○数学ができるようになりたいと肯定的に回答した生徒の割合は95%と高い。
●数学の授業で学習したことが、将来、社会に出たときに役に立つと考えてはいる。しかし一方では、数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないかと考える生徒の割合が低い。授業の中で、実生活の課題や問題を多く取り扱っていく必要があると考える。

★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○A 平均正答率は77.8%で、全国(0.4P)、県(1.5P)平均よりやや高い。 ○B 平均正答率は58.9%で、全国(2.0P)、県(2.6P)平均より高い。 ○ 正の数・負の数の意味を実生活の場面に結び付けて理解している。また、数量に着目して、連立方程式を立てることができている。 ● 連立方程式を解くことが苦手である。 ● 整数の性質を説明することが不得意である。	・ 基本的な計算の仕方を確実に定着させるために、反復練習をさせる。 ・ 連立方程式の解法については、手立てをしっかりと理解してから、多くの問題を解法別に解く指導をする。 ・ 文字式を利用した整数の性質や図形の性質を説明する手順を理解してから、問題を解くように指導する。
図形	●A 平均正答率は65.3%で全国・県(-1.1P)平均より低い。 ●B 平均正答率は56.8%で全国(-1.3P)、県(-1.8P)平均より低い。 ○ 合同の対応する辺や角を把握したり、円錐の母線から底面の半径を求めたりすることができた。 ● 空間図形において、円柱と円錐の体積の比較等が苦手である。 ● 合同な図形等の条件から事柄を求める技能の力が劣っている。	・ 空間における位置関係を理解させるため、見取り図だけで考えるだけでなく、実際に立体を様々な角度から観察するなど、指導を工夫をする。 ・ 図形の性質等の証明については、明らかにわかっていることを明確にし、証明の手順をしっかりと押さえながら、指導する。
関数	○A 平均正答率は59.2%で全国(1.2P)、県(1.7P)平均より高い。 ●B 平均正答率56.8%で全国(-2.5P)、県(-2.6P)平均より低い。 ○ 関数関係の表やグラフから適切な情報を求めることができている。 ● 条件から式を求める技能がやや劣っている。 ● 関数関係のグラフの特徴を読み取り、問題を解決する方法を説明することが苦手である。	・ 関数関係の式を求めるとき、変数と定数をしっかりと押さえ、方程式を利用するという手立てを基本として指導していく。 ・ 与えられたグラフの読み取り方の能力を身につけるために、実生活に即した題材を用いて、工夫して指導をしていく。
資料の活用	○A 平均正答率は62.0%で、全国(2.9P)、県(2.5P)平均より高い。 △B 平均正答率は55.8%で、全国(-0.1P)、県(0.3P)平均に同等である。 ○ ヒストグラムにおいて、中央値の意味を理解している。 ○ 確率の意味を理解している。そのためある事象の起こりやすさや出やすさの理由を確率を用いて説明できる。 ● 樹形図を利用して事象の確率を求めるとき、与えられた情報を分類整理することを不得意である。	・ 確率の求め方 $P = a/n$ の a と n の求め方を樹形図・表・計算等いろいろな操作から工夫して求められるよう指導していく。

宇都宮市立旭中学校第3学年生徒質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が見られるもの

- ものごとを最後までやり遂げて、うれしかった経験を持つ生徒が95%と多い。体験・ボランティア活動を多く取り入れた教育課程の成果が表れた。
- 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができると回答した生徒が91.3%と高かった。
- 家の人は、授業参観や運動会などの学校行事に来ますと回答した生徒が79.2%と高かった。これは学校から保護者や地域に積極的に情報を発信してきた成果であると考えられる。
- 昼休みや放課後、学校が休みの日に本を読んだり、借りたりするために、学校の図書館や地域の図書館に行かない生徒の割合が50.7%と約半数の生徒が利用していない。毎日の読書の時間は定着しているが、まだ積極的に読書しようとする意識が低い。読書習慣をつけるために、いろいろな本を紹介して、本についての興味関心を高めていく。また、ブックトークの実施や図書委員会からの読書の呼びかけを行う。
- 感想文や説明文を書いたり、自分の考えを文章に書いたりすることが難しいと思う生徒の割合が60%を超えている。文章を書くことに対する苦手意識を低くするために、個々に作文の書き方の指導をしていくとともに、全ての教科において表現する能力を高めていく。